

流 剣

第28回 姉妹都市交流少年剣道大会 於 福島県相馬市



八月三日、第二十八回姉妹都市交流少年剣道大会が、相馬市の「スポーツアリーナそうま」で開催されました。今回は、2011年の東日本大震災の影響で、三年ぶりに相馬市での開催となりましたが、昨年の屈辱を果たすべく全員が一致団結して大会に臨みました。小学生団体の部では流山Aチーム、個人戦小学生の部、中学生男女個人戦の部では、すべて優勝を勝ち取り、中でも小学生個人戦の部では、昨年優勝した流山市の神谷俊希選手(六年生)が二連覇の快挙を果たしました。夜の懇親会では、両市の指導者先生方が剣道談議に花を咲かせていました。翌八月四日は、相馬市剣道連盟会長の阿部先生のご案内で、車内で大震災時の津波の映像を見ながら、相馬市沿岸部の被災状況を見学しました。いまだ被災の爪痕が残っていました。その後、仙台市松島に足を延ばし、瑞巖寺の参拝や松島湾内遊覧船でカモメへのえさやりの貴重な体験を楽しみました。また、松島での食事が済んだ後に、「震度4」の地震が発生。車内で津波の映像

流 剣 流山市剣道連盟広報誌 平成25年12月24日 第三十七号 発行人 安達友昭 佐藤敬次 流山市剣道連盟事務局 昆野 雄三(☎7159-0278) ホームページ http://ryukenren.com



を見た後だけに、大変驚きましたが、連盟会員一同、怪我もなく無事に帰宅することができました。今回の相馬市での交流剣道大会をはじめ、貴重な体験を通じて、参加者一同大変有意義なひと時を過ごせたこと、良い思い出ができたことなど、帰りのバスの中では、あちらこちらから体験話が出ていました。来年も引き続き、優勝杯を手に行けるよう、さらに稽古に励み精進されることを望んでいます。(矢幡)



七段審査合格を振り返って 流山支部 鈴木 忠

本年五月、名古屋市中区で実施された審査会において、幸運にも七段に合格することができました。これも偏に、流山市剣道連盟はじめ流山支部の諸先生方のご指導の賜物と深く感謝申し上げます。私は、中学校当時、森田健作主演の青春ドラマ「おれは男だ」に憧れ、剣道部に入部。中学、高校と剣道を続け、大学では、フェンシングに転向し、スポーツで没頭してしまいました。就職と同時に、再度剣道稽古を復活し、途中数年間のブランクはありましたが、以来流山支部において稽古を続けてまいりました。剣道とフェンシングは、相通ずるところがあり、間合いの取り方、実際のタイミングなど、剣道修行において大変役立つものがありました。ただ、フェンシングの場合は、半身に構えるため、面打ちで体が斜め打ちになつてしまつたという癖が中々治らず、諸先生方からも指摘を受けたことがあります。今回の審査に当たっては、十分な稽古、準備を行った状態ではありませんでしたが、流山支部での基本稽古の中で、気を集中して先生方の指摘を頭に入れて稽古をしたことが、合格に結びついたものと思っております。審査では、充実した気力、気魄で臨み、絶対に退かれない、相手に一本を取らせない、打突後は最後まで打ち切り残心を取ることを念頭に審査に臨みました。結果的には、双方とも良い立ち合いができたものと思っております。相手方も一人合格しました。今後は、七段にふさわしい剣道を心がけ、精進してまいりたいと思っておりますので、皆様のご指導をよろしくお願い致します。

六段に合格して 江戸川台支部 千田哲広



八月、山形県で行われた審査会において六段に合格することができました。五段審査から八年が経過し、剣道をする機会から日々遠のいてしまいましたが、昨年から家族と共に江戸川台支部でお世話になることになり、今年の目標に昇段を掲げ、子供たちと汗を流しながら審査を意識した練習に取り組んできました。先生方の御指導による基本重視の正しい剣道を子供たちと一緒に学びながら、もう一度真剣に向かい合うことを思い出しました。審査に臨むにあたり、立会、攻め、打ち切ることを、我慢することを考え練習し、限られた時間をできるだけ剣道に集中して行きました。今回の審査では、前日に強化指導の先生にお声を掛けて頂き、立派な道場で他県の方々を交え稽古をつけて頂いたことも結果に繋がったことと感じております。地元市原を離れても、剣道を通じて流山で多くの御指導を頂く先生方や保護者の方々を支えられ、家族で剣道が続けられる環境に感謝して今後は子供達の指導にも力を注いでいきたいと考えております。これからも御指導御鞭撻のほど宜しくお願い致します。

事務局だより

各審査での結果をなぞをお伝えします 昇段審査結果 速報 八段 南 孝朋 十一月二十七日 七段 崎尾徹也 十一月二十六日 六段 大岡正芳 十一月二十五日 おめでとございます。合格の感想文は次号掲載予定です。 東支部 高野裕先生が、五月十二日、名古屋にて六段に合格されております。

Table with 4 columns: 初段, 二段, 三段, 四段. Lists names of participants and their respective grades.

Table with 4 columns: 五級, 六級, 七級, 八級. Lists names of participants and their respective grades.

編集後記 初のカラーということで今号は試行錯誤となりました。皆様の努力の証しになりますよう昇段昇級合格者名を全員掲載としましたが、いかがでしょうか。ご意見ご感想などをお待ちしております。平成二十六年も稽古を頑張りましょう! (MT)

編集委員 武田まこと 田中米秋 田部井弘 長崎 尚 南雲嘉弘 宮崎聖弘



五市親善 剣道大会

平成二十五年七月十五日、松戸市運動公園体育館にて、恒例の五市親善剣道大会が開催されました。小学生の部に参戦した七名は、優勝した柏市と大將戦にまでもつれ込む接戦を繰り広げ、柏、松戸に続き三位という結果を得られました。一般の部においては、大接戦の末、決勝で柏市に惜敗を期し、準優勝となりました。



東支部が45周年を向かえました

これは流山に剣道活動が芽生える種を播いて下さった新井守太郎先生の情熱ある行動が実った結果だと私は思います。昭和四十三年に東小学校に新しい体育館の落成がきっかけで初代支部長の伊藤茂先生と一緒に地域の子供たちに剣道を通じて青少年の健全育成を目的に行動したのであります。学校当局のご理解のもと募集をしましてところろ十八名の参加を見ることができ、今日(平成二十五年)まで活動ができました。大勢の指導者の先生そして父兄の皆様のご理解協力のおかげと感謝しております。

私もこの十五年間、東支部に携わって来られたことに感謝し喜びを今日まで過ごさせて頂き剣道妙味に尽きます。多くの剣道愛好者と友達を得たこと、一生の宝と思っています。本当に有難うございました。今後とも東支部の発展にご協力下さる様お願い申し上げます。(小久保)

大会に参加(写真下)、六チームによる選り分けリーグにおいて僅差で二位となり、決勝リーグ進出はならなかったものの、敢闘賞を頂く事が出来ました。強化稽古会も今年で二年目に入り、今年も順調な推移が続いています。下半期もこの勢いを保持し、流山剣道の充実を期して参りたいと思います。皆様のご理解ご協力をよろしくお願致します。(松宮)



平成25年度 小学生強化稽古会 活動ご報告 (日)に流山市民総合体育館において市内の小学校四、六年生を対象に合同稽古を実施、ここに四十七名の小学生が参加してくれました。この時の稽古ぶりとして、二十四年十月開催の市民大会並びに二十五年三月開催の連盟大会の結果を参考に今年度の強化メンバー二十五名(六年生八名、五年生十一名、四年生六名)を選抜させていただきました。支部別の人数としては、



東・三名、江戸川台・三名、流山・三名、鯉ヶ崎・二名、清流館・一名、流山警察・五名、初石・二名となっています。九月末までの半年間で稽古を十二回、市外団体との練習試合等を四回、市内審判講習会等への協力として二回、大会等の出場は七回、合計二十五回の活動を数えており、全体での出席率は九十一%超で皆勤者も七名あり、各自が積極的に稽古に参加している状況であります。本年度初の大会出場となった六月三十日の第十回安田杯争奪少年剣道大会においては(写真上)、出場八回目にして初の決勝進出を果たし、残念ながら決勝戦では敗退したものの、今年度幸先の良いスタートが切れました。九月にはこれまで準備優勝、三位をそれぞれ一回ずつ経験している相性の良い東京成徳杯小学生剣道



江戸川台支部44周年記念剣道大会

江戸川台支部は六月二日(日)に創立四十四周年記念剣道大会を開催しました。当日は天候にも恵まれ流山市剣道連盟の各支部の他、野田市剣道連盟の各支部から合計八団体の参加を頂き江戸川台支部三チームを合わせた十三チームで三グループのトーナメント戦を行い熱戦が繰り広げられ、流山市剣道連盟、流山警察署少年剣道クラブが準優勝、江戸川台支部Aチームが三位という結果でした。

午前の招待試合に続き午後は親子試合、学年別個人戦を行いました。特に親子試合はここ数年継続して行っていますが、「防具を付けてあんなに楽しく動ける自分の子供を見直した」「昔剣道をやってたが子供を介してまたやってみたくなった」という父兄の方の声も多く、参加者が年々増えています。実際に数名の父兄の方は自身で防具を購入し江戸川台支部の部員として稽古に励んでいます。



地区連盟対抗剣道優勝大会

今年最後の地区連盟戦は11月23日(祝)、成田市体育館で開催された。

区分	一般の部	高校生の部	中学生の部	小学生の部
監督	松宮 真人	崎尾 徹也	藤井 かおり	長島 和宏
先鋒	宮沢 愛香	深見 亮太	長山 凌大	杉原 晶太
次鋒	岩切 由美子	小林 日南乃	渡邊 真美子	堀 美咲
五将	橋原 健太			
中堅	松宮 大樹	海老原 由樹	小泉 耀新	関 海人
三将	南雲 宏司			
副将	千田 哲広	上野 春也	長島 雄大	神谷 俊希
大將	上野 達之	崎尾 悠介	関 航基	鈴木 颯太
1回戦	流山一安房(0)0 3(3)	シード	流山一匠達(3)1 2(4)	流山一市原(2)1 4(4)
2回戦	—	流山一鯉山(2)1 0(1)	—	—
3回戦	—	流山一柏(1)1 2(3)	—	—

特に高校生は1回戦シードで2回戦流山市に勝ち、3回戦柏市とは接戦、あと一歩でベスト8に終わった。流山市は今回各部門とも勝敗以上に健闘が光った。



千葉県民大会

今年には市原市ゼットエー武道館で開催された。一回戦の相手は昨年三位の木更津市チーム。流山は先鋒高橋選手、相手山田選手前半から積極的な攻め、中盤合い面で鋭く一本を取り、後半相手が面に来たところ小手、二本勝ち幸先良い勝利となった。次鋒は宮沢選手、相手は同じ清和の榎本選手、果敢攻め惜しい面が二本あったが、後半面を取られ惜敗となった。これら一対一、五将宮沢選手相手は同大先輩根本選手、宮沢選手面に行つた所返し胴、その後も攻めたが後半面に乗られ二本負け、一対二、中堅南雲選手相手は藤江選手お互いに攻め合ったが決定打が無引分け、三将流山のエース上野選手、相手は千葉選手権三位の軽米選手、開始早々軽米選手鉤せり合いから竹刀を巻き落として面、二本目は上野選手面に飛ぶ所を小手、格の違いを見せつけた。これで一対三、後の無くなった流山は再び二刀流で再三、上段からの鋭い面を放ったがろうじて首を振ってかわされ引き分けなり。それでも大將阿部選手、木下選手相手に果敢に攻め続け小手を先取、後半小手を返され引き分けになったが素晴らしい試合であった。(昆野)



十月十四日さわやかな秋晴れの中、第四十七回流山市市民剣道大会が開催されました。会場の流山市総合体育館は朝八時から会場設営が行われ、気の早い子供たちは会場設営中に準備運動を開始して注意を受ける一幕もありました。開会式での祝辞の中には総合体育館がいよいよ新しく生まれ変わるという話もありました。日本剣道型の演武は流山支部 矢幡先生(五段)、青山先生(五段)による気合のこもったもので試合への弾みとなりました。その後、小学一年生と二年生から五年生までの男子の部が二斉に始まり、各試合場で熱戦が繰り広げられ、特に低学年の試合はその姿の愛らしさと、懸命に戦っているにもかかわらずその動きのコミカルさで観客の笑いを誘っていました。私は審判として小学一年生の試合を見ましたが、一試合も判定がなく、一本を獲得して勝負が決まっていたには驚き、将来が大変楽しみです。各試合、熱戦が繰り広げられましたが、勝負は時の運、悔し涙を流す姿がそこかしこで見られました。昔から言われますが、試合での悔しい思いが今後の自分への糧となります。負けた者は負けた悔しさをバネに、優勝した者は驕らず次の戦いへ挑めるようにそれぞれの奮起に期待したいと思います。

第47回流山市民剣道大会

小学生の表彰式終了後は高校生、一般の先生の試合になりました。高小生の試合はもう少し元気が欲しいと思いましたが、技の完成度とそれを繰り出す速さは小中学生の比ではありません。見ごたえある熱戦がスケールアップして繰り広げられました。全国トップクラスの小学生ともなると、市民大会に出場していた高校生と渡り合える実力者もいます。小中学生には、高校生、一般の先生の試合を「次元の違う年長者達の試合」ではなく、「自分が到達する目標への過程の試合」と思い、一つでも技を盗むつもりでみていただきたいものです。結びに本大会の審判長(井上先生)が、閉会式で語られた言葉を抜粋します。『今日の試合は非常にいい内容でした。特に延長戦に入って「あきらめない」姿勢がみてとれました。非常に大事なところだと思えます。今日の大会で課題が見つかったと思います。また、今日帰ってから試合を振り返ると課題が見つかると思います。課題を見つけて、また明日からの稽古をがんばってください。』(長崎)

